



君の世界に芽生えるものは

くおんじゆく

久遠塾

vol. 59

久遠塾 ☎ 080-2182-1379 13:00~20:00
メールアドレス shiranuka.kuon@gmail.com

第2回防災講座を開催しました

3月18日、久遠塾主催の「第2回防災講座」を白糠高校で行いました。講座の進行役は、塾スタッフの柴澤大夢が担当し、講師は役場の地域防災課の職員が担当しました。

昨年の第1回防災講座では、宮城県石巻市出身の柴澤と、同じく塾スタッフで岩手県一関市出身の中川雄貴が講師となり、東日本大震災発生当時の被災経験や実際の映像、白糠町の津波シミュレーション動画で災害への日常的な備えの重要性をお伝えしました。そこで今回のテーマは、白糠高校が災害発生後の避難所になった場合を想定した「避難所運営体

験」としました。参加者は町民3人、白糠高校の生徒7人です。

講座では、最初に地域防災課の職員が「白糠町を含む太平洋側は、海溝型巨大地震がいつ起きてもおかしくないと言われています。いざというときに、避難先で行動できるよう防災対策を学んでほしい」と話しました。その後、参加者は2グループに分かれて、職員の説明を聞きながら段ボールパターションや段ボールベッド、室内用の間仕切りテントの組立を行いました。

参加した町民からは、次のような感想が寄せられました。

▼今回の避難所運営体験は、万が一のときに備え非常に役立ちました。段ボールベッドを組み立てたことで、その強度を確認することができ、高校生とも話す機会ができたので、参加して良かったです。

次は参加した高校生の感想です。

▼避難所を運営するには、町民の方と協力してやらなければならないので、このように町民と一緒に行う防災講座は重要だと思いました。

▼段ボールベッドなどの作り方を覚えていたので、いざというときには自分が率先して組み立てたいです。



組み立てた段ボールベッドに座り、強度を確認する高校生（中央）と町民の参加者

▼災害はいつ起こるかわからないので、こうした講座を通して防災対策を学んでおくことが大切だと思います。

塾では、今回の防災講座により、高校生と町民が一緒に学ぶ機会ができて良かったと思っています。特に高校生と町民と一緒に活動することで「生徒と地域社会を繋ぐ学び」が実践できていると感じました。また、高校生の防災に対する意見・考えを直接町民に伝える良い機会にもなったと思います。今後は年1〜2回の防災講座を実施したいと考えていますので、町民の皆さんにも参加していただきたいと思っています。

新たなスタッフを紹介します

埼玉県出身の岡戸清と申します。

主に生物を担当します。これまでは



医学・生物学系の研究員として大学や研究所に勤めていました。専門は昆虫の免疫学とマダニの疫学です。帯広畜産大学に勤めていたこともあり、北海道とはご縁があります。久遠塾で仕事ができることをうれしく思っています。生徒の皆さんと勉強することの楽しさを共有しながら、将来進みたい道へ歩めるように支援していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。



2年生のBS久遠塾で英語を指導する岡戸講師(右)。岡戸講師は生物のほか、英語も得意としています